

平成28年度清水町いきいきふるさとづくり

寄附報告書





# 目 次

- ・ 町長挨拶 2 p
- ・ 清水町のあゆみ 3 p
- ・ 平成28年度 清水町のできごと 5 p
- ・ いきいきふるさとづくり寄附 9 p
- ・ 基金を活用して行う事業 11 p
- ・ 平成28年度基金を活用した事業 12 p
- ・ 平成28年度の寄附概要 13 p
- ・ 平成28年度寄附者の方々 14 p
- ・ おわりに・・・ 18 p

初夏の候、町民の皆様、そして本町のまちづくりに関心をお持ちいただき、ふるさと納税によりご寄附をいただいた方々におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げますとともに感謝申し上げます。

昨年、清水町はいまだかつて経験したことのないほどの台風大雨により、道路、橋梁、水道などのライフラインをはじめ、家屋や農地などに甚大な被害が及びました。日常からかけ離れた心苦しい生活を町民の皆様が強いることとなってしまいましたが、様々な方のお力添えにより、少しずつ解消することができているように感じております。とはいえ、穏やかで美しい景観であり、食糧基地としての本来の姿へ復興していくには多くの時間が必要です。町民一体となり、着実に一步一步進めてまいりますので、今後とも十勝清水町を見守りいただけますと幸いです。

さて、平成28年度は、4月末より十勝千年の森に観光案内所（冬季クローズ）が設置され、6月1日には十勝清水駅隣のハーモニープラザに十勝清水観光情報ステーションが開設されました。両施設は観光案内の他、物販も行っており、道東の入り口として、より訪れやすくなりました。お土産品や特産品などもご用意しておりますので、お近くをお通りの際にはぜひお立ち寄りください。

教育の分野では、老朽化により解体された町民プールが、先日6月1日に清水小学校プールとして生まれ変わりました。この建設に合わせて、プール運営管理のため、基金から備品購入に充てさせていただきました。その他にも、保育所や給食室の改修など、昨年度に引き続き子育て支援にも取り組んでおります。

今、国を挙げて人口減少対策、地方創生に取り組んでいる中で、本町の取り組みに皆様のふるさと納税によるご支援が大きな支えとなっております。

あらためて皆様のご支援、ご厚情に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、お礼のご挨拶といたします。

平成29年6月

清水町長 阿部一男





## 清水町のあゆみ

北海道十勝平野の西部に位置する清水町 — 西には季節ごとに彩りを変える『日高山脈』の山々が、東には大雪山系トムラウシ岳から注ぐ『十勝川』が滔々と十勝平野を流れ、山岳と平野を流れる川、そして田園のコントラストが、北海道・十勝ならではの特徴ある景観を形成しています。

清水町の開拓は、第一国立銀行創設者である渋澤栄一子爵が熊牛地区に創設した十勝開墾合資会社によって始められました。明治 31 年 4 月に越前地方から入植した 26 戸 99 名を皮切りに、熊牛原野と呼ばれたこの地区に順次入植が進められました。その後百十年あまりが経過し、現在は、人口約 9640 人、農業産出額約 250 億円を有する酪農と畑作を基幹産業とした町になっています。



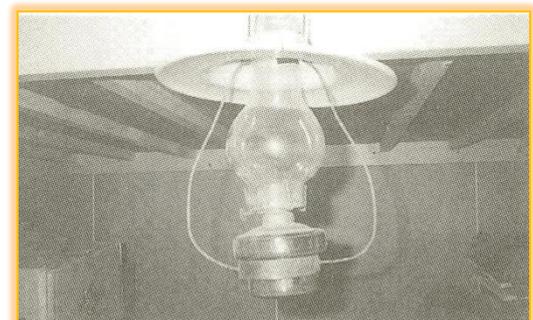
開墾会社の生みの親、渋澤栄一

開拓が進むとともに、次第に集落が形成されていき、明治 36 年には人舞村外一カ村戸長役場が設置されました。明治 40 年の農家戸数は 666 戸、1 戸あたりの耕地面積は 3.89ha となりました。現在と比べると 10 分の 1 ほどですが、主にキビや豆類、馬鈴薯、そばなどを生産し、特に当時の主食として消費されていたキビは、当時の村の人口 2,220 人に対し、2,600 人分の食糧に相当する量を生産していたそうです。



バレイショの収穫作業

清水町の市街地に電灯が灯ったのは大正 8 年ですが、電力を供給する水力発電所の建設に対し、議会は当初「将来の水田造成に必要な水資源が不足する可能性がある」と反対の意思を示していました。この当時、住民の暮らしにはランプが明かりとして使われ、高い電気代を払ってまで電灯をつけなくても良いという時代でした。その後、大正 10 年には電話が開通しますが、役場や商工業者など、加入したのはわずか 82 戸で、一般世帯への普及はかなり後になってからでした。



大正時代から昭和にかけての灯油ランプ

昭和 31 年 10 月 1 日、御影村との合併により、3,079 世帯、17,945 人の「新」清水町が誕生しました。町村合併促進法は、人口 8,000 人未満の町村の行政の効率を高め、財政力を豊かにし、住民福祉の向上を図ることを目的に合併を進め、全国の 1 万近い自治体を 3 分の 1 に減らそうというものでした。当時人口は 5,335 人、戸数 856 戸の御影村

はその対象となっており、「北海道町村合併促進審議会」などにより、御影村は清水町との合併を第1案として提示されていました。しかし、大正10年に芽室から分村した御影村は、清水町とは歴史的、経済的つながりは薄く、御影村民は合併反対派が多数を占めていました。十勝支庁の合併勧告、指導もあり様々な障壁を乗り越えての合併でした。

合併後の昭和30～40年代は、日本全体が高度成長の黎明期でもあり、住民の暮らしも便利で快適な様々な整備が進み、豊かさを実感できる基盤が整い始めた時期です。清水町でも、道路・橋梁、保育所や学校、公民館などの公共施設の新築改築などを進めました。

昭和50～60年代は各小学校の新築や清水町文化センター、日勝スキー場、町民水泳プール、老人福祉センターなどが建設され、現在の清水町の姿が形づくられた時代です。



昭和54年完成時の清水小学校舎

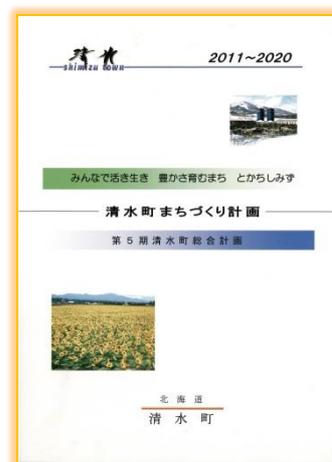


交響曲第九演奏会（昭和55年、文化センターオープン記念）

平成3年に策定した「森と水の郷づくり基本構想」は、清水町のもっとも大きな財産である自然を大切に、森や水を守り育て、自然と人とのかかわり合いを深めながら、活力と潤いのある地域を創造することを基本理念にしています。

平成18年4月1日、清水町の町政運営について基本的な事項を定める「まちづくり基本条例」を施行しました。この条例の施行により「情報の提供と共有」を柱に「町民誰もが参加する協働のまちづくり」を推進し「町民憲章」が掲げる理想のまちをつくることを目標として町政運営を行っています。

また、平成23年度から平成32年度までを計画期間とした清水町まちづくり計画（第5期総合計画）では「みんなで活き生き 豊かさ育むまち とかしみず」を将来像とし、町民みんなが参加し支え合い、活力と元気にあふれ、健康で安心して暮らせる豊かなまちを目指して、まちづくりを推進しているところであり、平成28年度は、子育て支援施策の新設、拡充、保健福祉事業の充実、安全なまちづくり事業の充実に取り組みました。





## 平成28年度 清水町のできごと



卯月

4月25日、清水町地域農業再生協議会主催の「平成28年度新卒・Uターン等新規就農者激励会」が清水町役場で行われました。高薄渡町長は、「人の命の源である大事な農業を本町で行って頂けることはありがたい。農業塾やアグリビジネススクールなどでも学びながら頑張ってもらいたい」と激励しました。その後、新規就農者に対し記念品が贈呈され閉会となりました。

5月13日から18日にかけて、町地域農業再生協議会主催のファームスクールをJA農産加工施設横の畑で行いました。

この事業は子どもたちが直に土に触れる体験を通じて、収穫の喜びを知ってもらうことを目的に毎年開催しています。

5月18日には、御影小学校1・2年生の児童が、じゃがいもとスイートコーンを植え付け、貴重な農業体験となりました。



皐月



水無月

6月12日、御影小学校開校100年記念「特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会」が御小グラウンドで行われました。

朝6時30分からNHKラジオ第1で全国生放送され、放送終了後は、体操指導講師の鈴木大輔さんの「体操のポイントレッスン」も行われました。

ラジオ体操会終了後には、御小6年生の参加者と体操のお兄さんお姉さんとが記念の写真撮影を行いました。



7月11日、北海道日本ハムファイターズと札幌の企業の連携企画「清水町限定ジモトトバック」が完成しました。

十勝でナンバーワンの乳量を誇る「牛」、第九のまちの「音符」、町の代表的スポーツ「アイスホッケー」、食と観光では「セグウェイ」、「牛玉ステーキ丼」、「鳥せいの唐揚げ」などがデザインされています。このバックは製作企画に賛同し、応募された方に配布されました。



文月



葉月

8月11日、第38回清流まつり納涼盆踊り大会がイベント広場で開催されました。仮装盆踊りには個人の部に8名、団体の部には7団体が参加し、くまのプーさんやアンパンマン、ムーミンなど、華やかな衣装と踊りで観衆の目を楽しませていました。また、15日には御影地区盆踊り大会が開催され、多くの親子などが参加し、抽選盆踊りでは大きな歓声で盛りあがっていました。

9月5日、台風10号の災害により臨時休校となっていた町内の小中学校が再開し、清水中学校では、3年生が「給水」、1・2年生は「泥のかき出し」「被災者宅を訪ねて困り事がないかを聞き取り社会福祉協議会へ報告する」ボランティアなどを実施しました。中でも3年生は給水所に訪れたお年寄りの車まで、ポリタンクに水を入れて届けること等も経験しました。このボランティア活動を通して助け合いの大切さを生徒たちは学んでいました。



長月



## 神無月

10月15日、商工会27店の各店舗前で、町内の購買意欲を刺激し復興へと弾みをつけるといった目的で「がんばろう清水町 しみずウォーク」が開催されました。各店舗で格安のスペシャルセット等が販売された他、ふわふわドームや縁日コーナー、ヨーヨー釣り、スタンプラリーなどの催しもあわせて行われ、本通2丁目の井戸端会議場では、スマートボールを楽しむ子どもの姿も見られました。

11月24日、しみず「教育の四季」推進協議会主催の『第10回子どもフォーラム』が開催されました。フォーラムでは、町内の小・中・高各校が推進している活動や取組を生徒（児童）代表が大きな模造紙などで紹介しました。その後、PTAの役員も交えた議論で、清水高校生徒会長の大久保珠美さん進行のもと、いじめ防止のためにどうしたらよいかなどの議論を行いました。

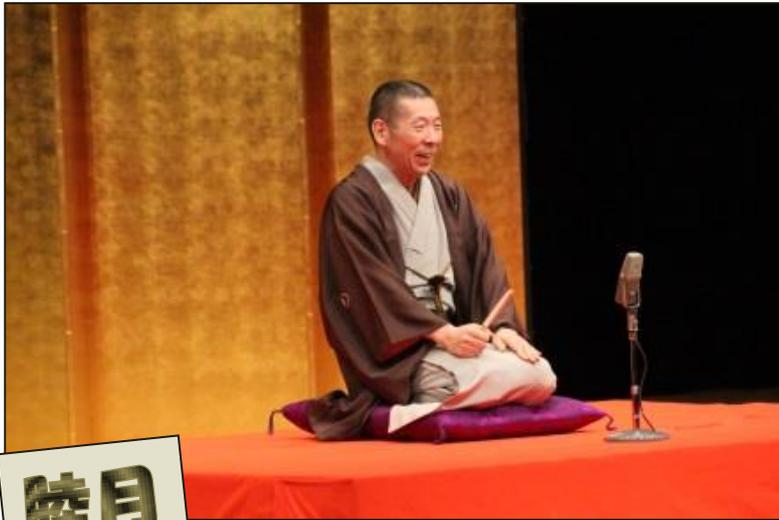


## 霜月



## 師走

12月18日、ハーモニープラザで「しみず寒謝祭2016」が行われました。このイベントは、例年商工青年部主催で行われる「クリスマスイベント」を今年は災害があったことから臨時的に名称や内容を変えて実施されました。会場の2階には復興・絆のメッセージが書かれた寄せ書き旗が掲示され、外での催しである「元気まき」では、子どもたちに「おやつ」や「おもちゃ」が振舞われました。



睦月

1月21日に、北海道新聞帯広支社主催で「しみず復興寄席 柳亭市馬独演会」が文化センター大ホールで開催されました。落語協会会長である「柳亭市馬師匠」の懐の深い温かみやユーモアのある落語に、町民の笑い声が会場内に響き渡っていました。この催しは、北海道新聞社創業130年記念で開催され、災害に遭った清水町の方々に笑顔を取り戻して欲しいと企画・実施されました。

2月15日、来年韓国平昌で行われる冬季オリンピック出場を決めたスマイルジャパン(アイスホッケー女子日本代表)の小野粧子選手(写真右)と近藤真衣選手(写真左)が来庁しました。オリンピック最終予選のドイツ戦で貴重な1点を決めた小野選手は「多くの方の応援で、オリンピック出場を決めることができた。」と語り、フルタイムシステム御影グレッズにも所属する両選手は喜び一杯でした。



如月



弥生

4月1日、文化センターで萩原建設工業株式会社主催による台風災害復興支援コンサートが行われました。このコンサートでは、アイネ・クライネ・ナハトムジーク、無伴奏ヴァイオリン、パッサカリアなどの曲が演奏されました。春の訪れを感じさせるような弦楽四重奏やヴァイオリンソロなどの優しい音色に、来場者からは拍手に加え「ブラボー！」と歓声が上がっていました。



## 清水町いきいきふるさとづくり寄附

清水町の文化芸術活動は、大正時代まで遡り、多くの団体やサークルが多種多様な活動を続けてきましたが、その集大成が、昭和55年の清水町文化センターのこけら落としとして開催された「第九演奏会」と言えるでしょう。町民204人の合唱は、全国に「第九のまちしみず」としてその名が広く知られるようになりました。それ以来、5年ごとに開催されており、また平成14年に開町100年を記念



して開催された「第九フェスティバル」では幼稚園から全小・中学校、高校、社会人の参加団体、全員が原語による合唱を行うなど、「文化のまち」をキーワードとしてまちづくりを進めております。

町民の文化に対する情熱とエネルギーは、昭和55年から約30年を経過してもなお連綿と受け継がれ、平成22年12月5日には第7回となる演奏会が開催されました。

本町の特徴的なまちづくりとしてのアイスホッケーは、昭和7年、御影小学校の教師だった加藤光也氏が池をスケートリンクにして、子どもたちに教えたのが始まりといわれています。

昭和13年には御影小学校の先生を集めてアイスホッケーのチームをつくり帯広大会に遠征するまでになりましたが、戦争の時代に入り一時期立ち消えとなりました。昭和24年、加藤先生は御影中学校の校長として赴任し、グラウンドに陸リンクをつくり再びアイスホッケーの活動が始まりました。

平成4年、町村では全国初めての屋内リンク「清水町アイスアリーナ」を建設し、清水高校アイスホッケー部は平成17年インターハイで準優勝、平成20年北海道高等学校アイスホッケー選手権大会で優勝を果たすなど、「アイスホッケーの町清水」を全国に発信しています。



また、まちづくりの基軸のひとつとして「教育」があり、本町は一人ひとりが、いきいきと輝く創造性豊かなまちづくりを推進しています。

次代を担う子どもたちが、健やかで伸び伸びとたくましく生きる力を育む環境を整備するとともに、一人ひとりの町民が心豊かに生きがいを持ち充実した生活を送るための学習環境や活躍の場の拡充に努め、創造性豊かな地域社会の実現を目指した人づくりを進めています。

全国に先駆け平成15年5月に、構造改革特区で「文化のまちの心の教育特区」が認められ、町単費による教員を配置し小学校1～2年生を1学級20人程度の少人数学級を実施しています。

いきいき輝く人づくりを理念とする少人数学級は、個に応じたきめ細やかな指導の充実により子供たちの学ぶ意欲は向上し、集団の中で個性を伸ばし、自分を見つめ直し、感情をコントロールして他者との関係を調整することのできる秩序感覚の育成など様々な教育的効果が成果として上がってきております。

平成18年4月に「しみず教育の四季」を宣言し、厳しくも美しい本町の四季を通じて、家庭、学校、地域が相互に連携し、新しい時代をきり拓く子どもたちを、家庭、学校、地域が「12の窓」から心を合わせて守り育てることによって、教育への関心を高め、それぞれがかかわり、何ができるのかを考えて行動する取り組みを進めています。



これらの本町がこれまで取り組んできた様々な施策について、町民や清水町出身者、本町にゆかりのある方が、寄附という行為によりまちづくりに参画し、寄附者の意向が反映された事業を推進することで、第九演奏会やアイスホッケーをはじめとする特色あるまちづくりを更に進めたいと考えております。

また、ふるさと納税制度が実施されたことにより、寄附条例を制定し、本町の特色を政策メニューで示すことで、寄附の意向を持つ方に対するアピールができ、寄附金は地方交付税の減少など逼迫する財政状況の中、新たな財源としてまちづくりへの展開が図られるものと考えています。

清水町まちづくり計画の位置付けについては、寄附金による事業の実施が町民参加の促進や、健全な財政運営の一助となる視点から、第5編「みんなで創る協働のまちづくり」第1章「町民誰もが参加する協働のまちづくり」の中の施策として「一人ひとりがお互いに尊重し、それぞれの立場で自主的にまちづくりに参加します。(町民)」と記載されております。

また、町内の商店等21箇所のご協力をいただき、寄附された方が協賛店で買い物などの際に特典が受けられる「ふるさと応援会員」事業を行っておりますが、平成26年度には、新たに感謝の意を込めまして本町の魅力のある特産品の贈呈を開始し、平成28年度は更にたくさんの方に特産品をお送りするよう、内容の充実を図っています。

いきいきふるさとづくり寄附では、政策メニューとして5つの事業を掲げておりますが、皆様より寄附を受けるためには、寄附を受けるにふさわしい行政運営が求められるものであり、本町の人材や自然、



地域が醸し出す雰囲気など魅力を高める継続的な努力を続け、多くの方が暮らしてみたいと思う清水町づくりを進めたいと思っています。

今後のまちづくりにおいても、それぞれが基軸のひとつとして重要な施策であり、寄附をいただくことによって、寄附者が事業に関わることとなり事業実施者(町民等)との連帯感の醸成を図って行きたいと考えています。



# 基金を活用して行う事業

積み立てた基金は、寄附者の指定する次の事業に活用されます。



## (1) 第九のまちづくり事業

1980年に清水町文化センターのこけら落としとして開催した「第九演奏会」以来、第九を本町のまちづくりの基軸のひとつとして、関連する様々な事業を行っています。

演奏会や合唱祭の開催、からくり時計の維持など、第九に関連する事業に活用します。



## (2) アイスホッケーのまちづくり事業

アイスホッケーによる青少年の育成や異世代の交流は、本町のまちづくりの特徴です。幼児、小中学生、高校生、一般のチームの育成強化や各種大会の開催、出場への支援などに活用します。



## (3) 次代を担う子どもたちの健全育成事業

子どもたちが心身ともにいきいきと学び、遊べる環境づくりや、地域全体で育てていく環境づくりを行います。

具体的には、少人数学級の推進、児童図書の実践、放課後子どもプランの実践、地域の見守り活動の支援、子育て支援事業の実践などに活用します。



## (4) 森と水・景観の保全事業

日本の食糧基地である十勝・清水町での安全で安心な農業の推進や、本町の森やきれいな水を守る活動を行います。

レクリエーションの森の整備、きれいな水を守る環境の保全、クリーン農業や安全・安心な農業の推進、桜並木や農村風景の維持保存、町内の遺産的価値のあるもの（しみず遺産）の発掘と維持保全などの活用を想定しています。



## (5) 花で彩るまちづくり事業

町内を花で飾り、来町する方々へのおもてなしの心を表現します。

具体的には、シーニックバイウェイ「十勝平野・山麓ルート」沿線への植栽や、町内各所の花壇の整備、公共空間への植栽などに活用します。



## 平成28年度基金を活用した事業

### ○アイスホッケーのまちづくり事業

アイスアリーナは、アイスホッケーのまちをアピールする象徴として平成4年12月にオープンし、幼児、小中学生から一般まで幅広く利用されております。



平成28年度は、以下5項目に21,600,000円を充てさせていただきました。

- ①冷却器等更新工事
- ②南側通路床改修工事
- ③給水設備改修工事
- ④ザンボニー置場
- ⑤地下貯留槽防食塗装工事

### ○次代を担う子どもたちの健全育成事業

町では、誰もが安心して子どもを生き育てることができるよう、子育て世帯の負担軽減や環境づくりなどの支援策に取り組んでいます。



平成28年度は、以下5項目に6,603,000円を充てさせていただきました。

- ①子育て支援事業用備品購入（チャイルドシート、ベビーカー、ベビーラック）
- ②保育所冷房設備設置・移設工事
- ③第二保育所遊戯室床改修工事
- ④清水小学校水泳プール用備品購入
- ⑤アレルギー対応食調理専用室増設工事

### ○第九文化継承

昭和55年、清水町文化センターのこけら落としにベートーヴェンの交響曲第九演奏会は、声楽を学んだ者や一流の合唱団しか歌うことができないと言われてきた第九の常識を覆し、ほとんどが素人の清水町民の合唱団が結集した歓喜の魂の歌が多くの人たちに感動を与えました。今まで培われてきた、清水町の誇りである第九の文化、精神性を、次世代へ継承していくために、また多くの町民が第九を身近に感じられるような「新たな第九」の在り方・方向性を見据えた事業（第九関連事業助成・展示会・ミニコンサートなど）を推進するため、基金より300,000円を基金より充てさせていただきました。





## 平成 28 年度の寄附概要

『清水町いきいきふるさとづくり寄附条例』の制定から 9 年目となる平成 28 年度は、5,739 名の方々から総額で 84,575,000 円の寄附をいただきました。

第九のまちづくり事業	195 件	2,740,000 円
アイスホッケーのまちづくり事業	196 件	3,570,000 円
次代を担う子どもたちの健全育成事業	1,625 件	22,273,000 円
森と水・景観の保全事業	997 件	13,551,000 円
花で彩るまちづくり事業	112 件	1,380,000 円
指定なし	2,615 件	41,061,000 円
合計	5,740 件	84,575,000 円

※一度に複数の事業に対し寄附できるため、人数と件数の合計は一致しません。

また、平成 20 年度の寄附受付開始からの累計額は以下のとおりです。

第九のまちづくり事業	362 件	5,494,000 円
アイスホッケーのまちづくり事業	416 件	14,795,000 円
次代を担う子どもたちの健全育成事業	2,773 件	42,009,816 円
森と水・景観の保全事業	1,708 件	25,091,000 円
花で彩るまちづくり事業	197 件	2,727,158 円
指定なし	3,848 件	63,535,140 円
合計	9,304 件	153,652,114 円





# 平成 28 年度寄附者の方々(敬称略・順不同)

## ◆ 600,000円

原 幸一郎

## ◆ 300,000円

澤田 司、檜山 孝美

## ◆ 200,000円

梶本 忠保、谷 俊男、奈良坂 浩、佐藤美知雄、原 周平、角川 秀樹、中島 俊輔

## ◆ 200,000円未満100,000円以上

瀧原 道東、原 正子、原 拓平、久保 民子、門脇 孝雄、杉森 四郎、小泉 晃志、  
宮内 修平、野崎 敬司、関口 雄三、小見 宰、小見 宰、土屋 洋二、高坂 久夫

## ◆ 100,000円未満50,000円以上

岡田 定七、帆足 昭彦、樋爪 明雄、富重 博、大槻 望、加藤 裕世、竹澤 宏、  
高橋 誠志、坂井 典孝、加地 榮一、田野口 学、日比野靖也、伊藤 洋輔、工藤 貴子、  
チーム 72、BTB ほっかいどう、よっちゃん農園、谷野麻由子、上野 榮子、原 有佳里、  
安西 義明、下山 学章、茶谷 史弥、齊藤 雄大、齊藤 暁子

## ◆ 50,000円未満30,000円以上

古瀬 要、須賀 洋子、遠藤 幸子、大尾 泰裕、織本 幸、柴山 和夫、橋本 有紀、  
佐藤 文子、植村真理子、山田 繁寿、清水美奈子、坂本 充、坂本 充、咲間 茂、  
高橋 佳靖、高橋 高志、田中 仁人、古谷 聡紀、杉本 幹子、牧 尚孝、熊木 英雄、  
竹田 伸、大村 守、角田ミツエ、佐々木 一、三崎 典生、岡田 衛、遠藤 謙二、  
高橋 克周、池田 政治、遠藤 俊春、一井 智之、岡村 隆、矢嶋 宣幸、小見 宰、  
横矢 悠太、廣部 希世、金田 英幸、笠井 巖祐、杉村 和哉

## ◆ 30,000円未満20,000円以上

東谷 良昭、帯広信用金庫清水ブロック、川口 宏、田中 俊江、木村 亮、小見芙美恵、  
岩田 守正、山崎 隆義、岩田 護、吉富 雄治、小林 由樹、北口 政浩、竹下 里美、  
島田 雅胤、角野 歩、小田 晃義、高倉 聖哉、丸山 通広、白石 潤、河村 美生、  
黒田 功、阿辺 謙二、肥田 明義、城出 芳浩、小林 豊文、田島 敬一、鈴木 雅之、  
浅谷 敏子、北野 泰、佐々木 亮、鈴木 秀昭、大久保 彰、神 江里、織本 幸、  
木呂子義之、金田 英幸、小塩 康夫、長町 哲男、竹中真由子、中村 達也、茂古沼 誠、  
河北 浩、長沼 孝至、芳賀 一徳、大塚 啓明、中村千恵子、中村千恵子、相馬 正欣、  
大塚 政彦、高岸 秀俊、一野瀬昌則、小西 慶子、山田 弘一、川窪 賢治、飯田 知弘、  
苗加 充彦、瀬尾 俊哉、伊藤 次郎、藤井 章信、Madsen Dan、田村 朋弥、根本 敬子、  
野村 英次、辻 文彦、山崎 康則、廣瀬 紀彦、福田 馨、口田 静雄、槇 信弘、  
井上 義博、浅野 専一、宗 克美、小山 哲也、渡辺昭九郎、田畑 俊徳、菅 富士郎、  
羽山 喜頭、菅野 一之、石黒みどり、岩切 武志、谷地館 貢、佐藤 勉、尾原 博志、  
川瀬 泰弘、山田 進二、荒木 和貴、佐藤 恭一、戸田 行雄、浅野 進士、尾崎 道孝、  
赤堀 聡彦、斉藤 隆生、山崎 恭子、岩永 勇男、安部とおる、木幡 徹、田邊 良夫、  
花村 太、神谷 恵、松永 有史、遠藤 誠、遠藤 誠、星野 直人、中西 敏貴、  
樋詰 透、河端 昌子、船渡 寛人、鳥本 陽子、三宅 康博、石野 利弘、大尾 泰裕、  
大塚 晶彦、荒川 義寛、近藤 洋一、武田 裕平、松本 貴行、井澤 憲文、相馬 正欣

## ◆ 20,000円未満10,000円以上

栗葉 昌司、井澤美恵子、坂戸千恵子、星野 義明、田丸 俊三、久保田正路、山口 浩子、  
高橋 佳靖、菊地 淳子、小島 敏宏、新井 勇治、新井 勇治、麻岡 誠司、笠井 俊宏、  
笠井 俊宏、望月 俊邦、牧村 崇、寺島 雅一、福島 栄一、高垣 俊郎、木村 定勝、  
高橋 伸育、窪田 明、黒木 尚長、仙波 勝彦、大石 英典、熊谷研一郎、眞島 隆三、  
石島 聡子、古川 等、中村 裕紀、井家 敦、古関 昌弘、永田 清雅、鈴木久美子、  
土屋 登嗣、黒田 真衣、朝戸 健夫、浅賀 昭伸、武井 晶裕、佐藤みち子、永田 幸彦、

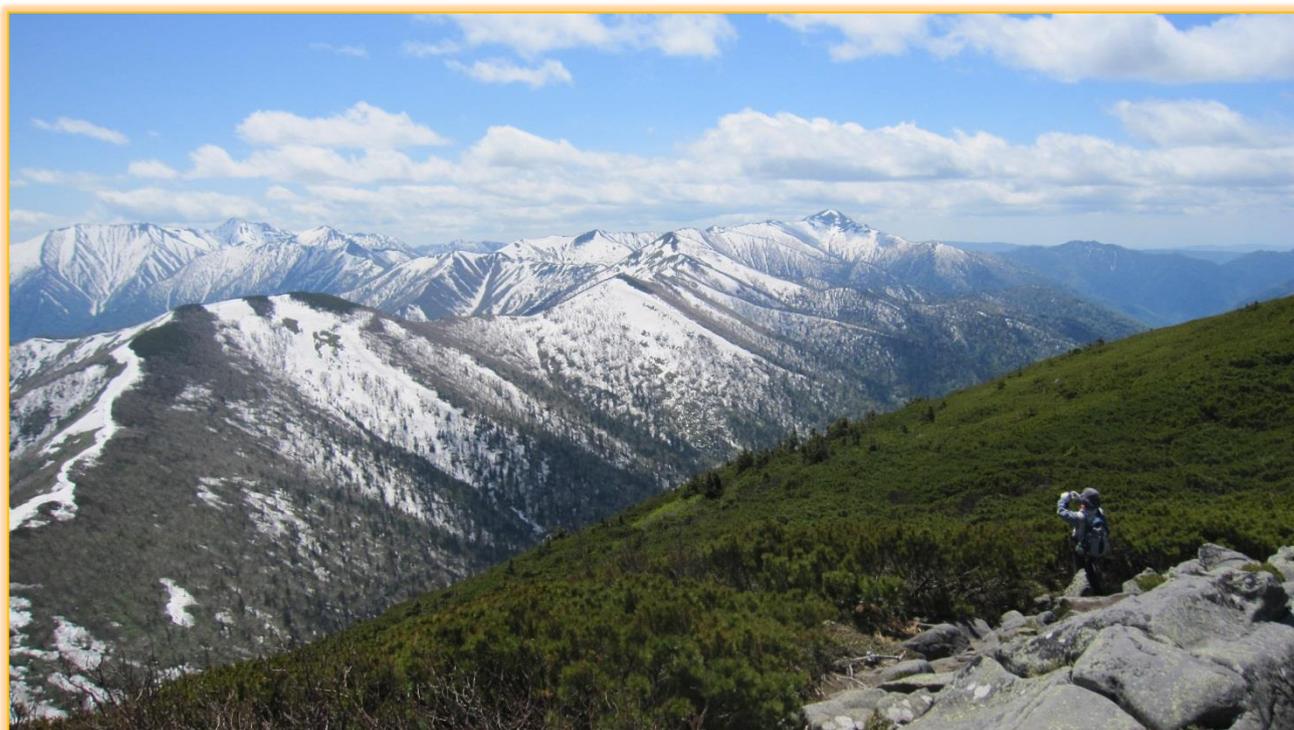
篠原 滋、村井 哲、石川 錦哉、谷川富紀子、森本 高志、小川 晃、桑原 孝正、  
 上家 博一、新井 良太、小玉 容子、川手 宏介、佐藤 恵介、国定 美恵、小泉 歩、  
 小林 靖史、嶋内 稔、永崎 雅信、甲斐 裕基、竹内 薫、中山 容子、小野田 孝、  
 大家佐智代、北島 良子、大城 真也、須永 大介、櫻井 保智、池田 一生、村木 智江、  
 西岡 直樹、加藤 雅己、天野 有香、山中 浩、福田 直紀、小城 英樹、鈴木 文徳、  
 松浦 秀和、山田 隆之、江川 一樹、林 靖人、田中 健治、中塩 了、加賀谷義治、  
 柴田 稔人、尾崎 力弥、鷺尾 一暢、宮崎 郁、岡宗 尚代、小川 真一、吉永 和人、  
 渡辺 一令、加藤 正平、村上 康司、小倉 崇、林田 洋祐、渡部 真法、安田 健一、  
 林 博史、山口 惣一、真鍋 忠義、後藤 新平、堤谷 浩、茶谷 誠、川本 理、  
 百瀬 芳夫、杉本 明、鈴木 令子、田島 宗子、五味 正哉、横山 均、末広 誠、  
 吉田 章子、吹上 則浩、今津 康平、松木ゆかり、松本 剛、小柴 博昭、石井 克二、  
 山崎 隆義、鶴野 孝一、田中 純子、宮本 恵子、清水 郁恵、廣瀬 光伸、西原 一孝、  
 浅井 行孝、峰野 純一、川崎 靖、森岡 崇、大河 暢、柳田 正明、中島 友之、  
 湯浅 英司、大平 豊、石原 晋也、工藤 正安、吉岡 寛子、佐藤 俊行、川崎 義浩、  
 吉本 伸次、川崎 義浩、矢内 直樹、沢井英一郎、谷澤健太郎、橋本林太朗、山田 啓太、  
 秋丸 弘吉、大久保ミツイ、金子 雅俊、渡部 亜矢、林 俊一郎、人見 智行、近藤千恵子、  
 油村 康子、八田 智幾、矢田 雄也、笠原 文男、黒木絵理加、早瀬 侑亮、酒井 潤子、  
 船引孝次朗、田中 元子、田中 元子、小椋 利昭、北村 朗裕、白石 重幸、鈴木 貴博、  
 大野 敬祐、門 哲史、阿部 冬希、岩崎 秀光、田中 秀樹、神野 良樹、梅森 建、  
 杉本 博樹、濱田 恭輔、真鍋 忠義、杉本 貴史、舟橋 和宏、松本 敏弘、清水 武、  
 稲田 博文、西山 崇三、本庄三知夫、浅井 快春、伊藤 明子、小島由起子、原田 學、  
 熊谷 彰洋、菊地 智和、水谷 文俊、谷 智尋、宇木 将則、小林 祥浩、風間 理恵、  
 館岡 宏子、松山 勝敏、舛田 譲二、高崎 和也、小宮 聡、加藤 浩章、佐々木貴裕、  
 古田 博文、門田 光司、橋本 秀一、増渕 公夫、細川 和彦、太田 長宏、石原 敬一、  
 園 春樹、川田 拓磨、北岡 直樹、柏谷 潤、中山美恵子、大熊 拓児、堀部 清香、  
 新井 義男、庄司みどり、村上千恵子、鴨志田雅樹、鈴江 綾子、鈴江 和俊、酒田 満、  
 尾関 順子、曾我まゆみ、小杉 愛子、北島 英雄、杉浦 勇二、村木 謙悦、西村 浩司、  
 深堀 知宏、真鳥 利郎、西村 友孝、和南城寿一、渡部 陽、岡田 渉、柳原 希美、  
 関口佐知子、青木 直子、尾杉ひとみ、川島 雅弘、廣澤 壽一、加藤 典臣、牛久 祐輔、  
 高野 亮、湯地 大輔、布戸 隆多、坂原由加里、一宮 寿好、青木 尚人、井瀧美恵子、  
 橋本 良紀、斉藤 智、飯島 岳紫、松井 正彦、原田 慎一、清水 美紀、田丸 雄三、  
 宇佐美浩司、大森 尚行、菊地 麻里、福森 智昭、本岡 克敏、佐野 久、鬼塚 朋子、  
 熱海 宏憲、松島 仁、松永 泰史、野村 陽二、清水 祐輔、奈良 修、山口 悟、  
 杉本 浩之、中嶋 裕介、三林ウメ子、常見 浩司、福成紀美子、山田 洋志、佐藤 行雄、  
 沼田 幹、沼田 幹、牧野 智成、石川 和男、三橋 大介、山本荘太郎、柳澤 行孝、  
 中村 昭俊、水木 裕之、梅村 光将、宇野 健一、村野 知美、谷川 哲也、加藤 博樹、  
 徳方 基泰、後藤 智巖、音羽 毅、齊藤 哲、北 雄一、黒川 真、河村 達夫、  
 荻野 直彦、樋口 雅宏、今西 修一、佐久間一浩、石川 敬一、前川 雄大、野田 千穂、  
 和田 美香、野田 巨樹、笠井 隆夫、佐藤 新吾、鈴木 剛、鍋田 修彦、牧 晴樹、  
 植村 仁郎、小澤亜希子、中屋 松男、佐久間 武、佐久間 武、松本 剛、平手 亮次、  
 石渡 律子、中原 洋一、金本 徹二、村上 典久、宮崎 武敏、大原 秀俊、渡部 康弘、  
 高橋 建人、中村まゆみ、中村千恵子、渡邊 健英、吉田 修一、鈴木 啓太、辰己 剛司、  
 田中 浩幸、平賀由希子、川端 琢磨、五十嵐武司、鴨井 誠一、遠藤信太郎、磯部 健介、  
 菅原 睦弘、西山 博章、吉田 健一、渡辺 洋一、渡辺 洋一、関根 愛、山本 裕貴、  
 田中 寛之、西島 弘也、福永 義雄、福永 義雄、水谷 安岐、前田 正樹、多留木謙介、  
 藤本 奈緒、有田 真人、内田 俊樹、中井真知子、岡田 順一、吉井 一樹、花見 健志、  
 花見 健志、杉野 敏也、三宅 千晶、佐藤 勝博、和田麻紀子、柄崎 康隆、中澤 健一、  
 八卷 孝一、鹿野 大城、菅 健太郎、熊谷 健、大割昌一郎、松村 滋、河瀬 貴、

鈴木 之彦、村上 明博、大下 昭、吉井 勇、櫻井麻理子、梅津 正哉、市川 輝美、  
 藤川智哉子、平子佐知子、下山あさき、山中 潔、梶田みゆき、滝口 真也、石川 浩、  
 旭 邦篤、中村 博文、竹本 史、竹本 史、原 健一、宇和川 薫、田中 孝明、  
 佐藤 誠、佐藤 公子、塩田 勝章、佃 啓吾、金子 善隆、鹿島 栞、今井 裕之、  
 平良 満、内村 僚一、松本 孝弘、坂倉 玲欧、宮嶋 義伸、土佐 吉幸、丁 毅学、  
 浅沼 忠志、塩原 清、藤本 篤、早川 拓郎、松村 繁男、尾形 元、山下 貴司、  
 美山 貴文、木下 雄輔、吉井 花奈、古谷 季也、小野寺 徹、平山 幸良、土屋美恵子、  
 片山三枝子、西村 真、加藤 榮一、鏡 純一、佐藤 清朗、西澤 明弘、滝本 友美、  
 浦嶋 康恵、本 文夫、加藤 徳雄、中尾 昌弘、水木 裕之、水木 裕之、出川 順司、  
 高橋 徹、山内 真輝、花村 利幸、長谷川 顕、佐々木 潤、鈴木 崇史、古川 大、  
 長坂 真也、長坂 真也、菅野 建夫、菅野 真樹、羽田 哲、佐久間一浩、高麗 雄基、  
 佐藤 愛、冨塚 重幸、福谷 浩之、美川 千尋、美川 千尋、村上新一郎、増子 順由、  
 千葉 大輔、大森 桂子、織本 幸、加藤 和彦、此川 容子、長谷部拓夢、佐野 清美、  
 尾台 正樹、加山 政烈、遅塚 広敬、深井 一博、國廣 真吾、福田 賢一、永田 貞子、  
 飯田 佳一、村井久美子、永田 研自、福田 馨、榎 圭介、藤樫 勇輔、細谷 武美、  
 国分 博希、熊谷 哲也、安井 祥人、長浦 真顯、宇佐美晴己、鈴木あつみ、美川 千尋、  
 田中 貴美、佐藤 陽子、山本 哲也、山本 哲也、佐藤 陽子、村井 督尚、馬場 勝美、  
 田方 篤志、弘 新太郎、磯部 雅仁、佐竹 洋幸、旭 亨、鷺見 崇、前波 友美、  
 中野 健司、中野 健司、田中 直幸、新沼 正美、松田 裕子、平井 聡、中岡 祐司、  
 原 崇、岩田 俊樹、武藤 政尚、沖 純子、塩谷 勇規、小関 崇方、玉井 雅史、  
 柳澤 悠平、山本 浩、岡 智子、桐渕 洋司、桐渕 洋司、黒田 功、佐藤 努、  
 山内 幸雄、平野 静子、都築はつ子、中西 明子、浅野 専一、浅野 専一、樹神 敏子、  
 徳田 潔、小林 健介、平山 舞、越智 宏充、大西 伶奈、本岡 聰美、出口 一義、  
 小林 賢、酒井 知子、羽山 智加、山本 和子、前田 太志、山田 博、奥 陽一朗、  
 石谷 陽一、松本 彩、古野実千代、佐々木寛明、瀬戸 勇次、永渕 武馬、松本 彩、  
 上山 英也、安田 弥生、村上 典久、山本 平次、齋藤 祐輔、青木 肇、熱田 晃子、  
 綿引 佳一、久住 貴範、近藤 巖、三部 正哉、安永 英明、沢井英一郎、神代 卓見、  
 大原 久典、牧野 展也、酒井 晴美、齋藤 進、佐々木章子、古山 康彦、竹内 圭、  
 小林 良、鎌田 宏明、米山 友哉、伊藤 敦、西山 博章、高成田綾子、高下 秀昭、  
 山本 清作、渡邊 洋、奥田 綾野、鈴木 洋一、伊藤 英子、近藤 創、高木 亮、  
 甘糟薫一郎、長谷川 聡、今井 陽子、加藤 啓輔、植西 明子、伊達 政幸、原田知加子、  
 斉藤 隆生、斉藤 隆生、櫻井麻理子、鈴木 敏幸、小林 賢、野田 明、田名部弘勝、  
 君村 和彦、君村 和彦、難波 義和、中村 武史、大内 中、松原 道博、原口 義治、  
 朝日 教之、阿部 浩美、山東 剛裕、川村 隆彦、相良 文雄、鈴木 吉光、岡田 絵梨、  
 筒渕 幸樹、若林 和仁、金子 智絵、河野雄一郎、米本 典生、窪田 淳、村上 典久、  
 板垣 宏、土田 洋平、山田 晃子、小松 慎典、石谷 陽一、津田 悠介、徳永 崇行、  
 伏見 隆、小松 洋、川上 真司、廣島 真吾、村田 了介、舛田 譲二、鈴木 慶輝、  
 水谷 克洋、深澤 幸博、武田 章憲、武田 章憲、郡司 孝、磯部 雅仁、飯田 裕一、  
 藤井 晃平、城宝 哲也、平松 央、平松 央、山田いつか、新居 英樹、山田いつか、  
 山田いつか、山田いつか、石田 亮、岡本 純子、森 善隆、田中 邦和、山野 貴史、  
 中田 利正、赤堀茉莉香、赤堀茉莉香、浜田 直樹、呉座 由、蔦谷 聡、鈴木 圭太、  
 岸本 麻美、水戸部大輔、坪倉 祐一、安藤 俊介、足立 哲也、立石 喜裕、南 浩一郎、  
 浅野 専一、吉岡 秀雄、鈴木 祥大、原田 高幸、黒田 広美、澤 彰洋、山崎 恭子、  
 山崎 恭子、奥田 文幸、赤井 雄一、瀬津 隆彦、板津 和彦、椎葉 当則、土田 貴之、  
 志筑 義美、三橋 大介、矢吹 尚彦、原 敬一、田中 康俊、田中 康俊、羽田 良之、  
 村上 典久、松尾 敏宏、網 悟志、小坂美由紀、伊藤 修治、橋口 裕嗣、二村 年哉、  
 原田 健、辻 真貴男、斎藤 順平、中捨 克輝、丸山 創、竹内 理恵、武知由佳子、  
 稲垣ひろみ、工藤美和子、窪田 瞬、山田いつか、佐藤 愛、狩野 洋子、松澤 孝仁、

松澤 孝仁、松澤 孝仁、立木はるか、林 郁子、下村 啓、山田いつか、有住 静子、  
 長谷川 信、目黒 謙一、小島 裕子、細羽 大輔、松田 博義、甲斐 裕基、熊谷 亘泰、  
 千喜良 心、榎田 光浩、松岡 威文、勝野 泰司、勝野 泰司、勝又 秀雄、南谷 幸宏、  
 嘉治 一樹、山口 聡、井上かな江、角 智之、辻 康裕、坂本 健一、金澤 隆、  
 飯田有紀子、佐久間一浩、青木 友和、伊東 淳雄、霜平 健太、林 正武、松元 一隆、  
 山口 洋子、川端 美和、神谷 英司、加藤 毅、高木 雅敏、酒井 久友、鎌田 研治、  
 野々山友希、武川 光夫、山田 晃裕、村上 典久、清水 俊行、益田 巧二、山口 藍衣、  
 星 義明、保村有貴子、濱野 亮子、玉川 博美、隅田 佳孝、井川真理子、宮島 正博、  
 山田 充子、大川菜穂子、林 文祥、松田 堅司、前田 雄一、前田 雄一、中野 瞳、  
 増子 佳世、坪谷 透、大塚 善弘、入村 隆之、長内たか嶺、神場 正広、武田 真光、  
 高橋 伸夫、松葉 敦、高橋 正恵、富永 大悟、森口 孝司、岩原あゆみ、川勝 賢由、  
 高橋 和広、菅原 知彦、高橋 綾子、五條 智久、五條 智久、出川 順司、菅原 知彦、  
 尾形 元、田島 稔章、釜田 敏将、石坂 貴彦、井上 修司、坂倉 玲欧、吉田 義隆、  
 大越 章司、鈴木 隆、安野 敬幸、遠藤 友樹、石田 英治、白石 聡、大畑 修三、  
 大畑 修三、大畑 修三、小林 薫、外城やよい、渡部 邦彦、加藤 聖紀、徳山 博保、  
 井上 昌子、鬼頭 和也、木村 大輔、星野 稔、藤田 正則、井上 純人、渡辺 寛明、  
 細木 洋一、佐藤 寛士、岩田 英右、星野 稔、恩田 明、佐藤 晃一、守屋 初男、  
 大川 健二、渡部 陽、石村 春令、坂西 史也、庄司みどり、北岡 裕子、柳川 道雄、  
 柳川 道雄、河村美智子、吉川 義範、吉田 潤、毛山 桜子、國井奈央子、佐藤 基嗣、  
 大里 一郎、尾形 元、陣内 孝浩、村上 昭二、原田 博美、吉富 雄治、木下 公昭、  
 廣川 将道、村本 伸一、宮園 健治、木村 道夫、植田 綾子、角田 大輔、野村 麻衣、  
 大野 真彩、山田 聖喜

公表希望者	1,067 名	17,511,000 円
非公表希望者	4,672 名	67,064,000 円
計	5,739 名	84,575,000 円

※公表希望者のお名前の掲載については、本人の了承を得たご寄附のみ対象としています。





## おわりに・・・

### ○清水町いきいきふるさとづくり寄附の今後について

平成29年4月に総務省より通達があり、返礼品の取扱いについてのガイドラインが示されました。清水町におきましては、返礼割合が検討すべき項目となっておりますので、今後調整をおこない、実際の見直し時期については、平成29年10月ごろの予定をしております。見直しにあたり、全品目の内容量などが変更となる見込みです。皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承くださいませようようお願い申し上げます。

また、ふるさとチョイスからのお申込みについては、現在お申込み1回につき、特産品の選択を1点までとさせていただいているなど、ご不便をおかけしているところではございますが、返礼品の見直しに加え、よりお申し込みやすくなるようお申込みフォームの改修を行う予定です。

上記2点の返礼品とお申込みフォームの見直しについては、ふるさとチョイス内の清水町地域ページや最新情報でお知らせをさせていただきます。QRコードリーダーをお持ちの方は下記のQRコードから読み取ると清水町地域ページに移動できます。インターネット環境をお持ちでない方は下記までご連絡ください。



北海道清水町役場 企画課 統計企画係  
〒089-0192 北海道上川郡清水町4条2丁目2番地  
TEL 0156-62-2114 FAX 0156-62-5116  
E-mail : [ki-furusato@town.shimizu.hokkaido.jp](mailto:ki-furusato@town.shimizu.hokkaido.jp)  
清水町HP : <http://www.town.shimizu.hokkaido.jp/>

### ○災害復興について

平成28年8月30日から31日にかけて接近した台風10号は、日高山脈の麓の清水町にとってこれまで経験したことのない記録的な大雨をもたらし、十勝川に注ぐペケレベツ川や芽室川の氾濫により住宅の流出や倒壊、床上床下浸水などが発生。乳牛の流出や畑の冠水などもあり、これまで大きな災害に縁遠かったまちに、非常に甚大な被害をもたらしました。その後、9月1日に既存のふるさと納税に加え、緊急寄附フォームを新設し、大変多くの方々から、心温まるメッセージとともに、ご寄附をいただきました。応援して下さる皆様には頭が下がる思いです。

8月31日に市街全域で断水となり、約2週間後の9月15日に断水解除。ながらく運転が見合わせられていたJRトマム～芽室間が12月22日に再開されるなど、少しずつですが、復興に向かっております。橋梁崩壊や道路破損なども少しずつ改修されておりますが、農地などではまだまだ強く傷跡が残っております。これより、元の姿の清水町、ひいては以前にも増した活力のある町へ発展させていくため、町が一丸となってまちづくりを進めてまいります。寄附者の皆様には今後とも十勝清水町を見守りいただければ幸いです。



